

**芦屋市における過去5年間の交通事故発生状況(平成25年～平成29年)
と平成29年の交通事故発生状況検証**

※市内交通事故件数351件のうち、第1当事者の市内在住者146名

(第1当事者) 交通事故に関係した者のうち、過失(違反)が最も重いものをいい、過失(違反)同程度の場合は、被害の軽いものをいう。

(第2当事者) 交通事故に関係した者のうち、過失(違反)が軽いものをいい、過失(違反)同程度の場合は、被害の重いものをいう。

時間別事故発生状況(件)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
0時～2時	5	11	4	9	6
2時～4時	1	4	1	4	2
4時～6時	4	7	7	1	8
6時～8時	26	30	30	26	31
8時～10時	51	40	55	53	58
10時～12時	42	39	27	38	43
12時～14時	40	43	31	39	31
14時～16時	28	42	42	35	34
16時～18時	73	64	56	54	66
18時～20時	42	44	35	34	47
20時～22時	25	21	18	16	20
22時～24時	15	11	13	13	5
計	352	356	319	322	351

①芦屋市内で発生した事故の主な時間帯は通勤・通学の時間帯である8時～10時、退勤・下校の時間帯である16時～18時が特に多い。交通事故件数は平成27年から毎年増加している。

高齢者の安全確保

高齢者関係事故（65歳以上）

<参考>
(兵庫県)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成28年
市内交通事故件数（件）	352	356	319	322	351	27340
高齢者事故件数（件/年）	89	103	111	116	128	8753
事故全体に占める 高齢者事故件数の割合（%）	25.3%	28.9%	34.8%	36.0%	36.5%	32.0%
第1当事者事故件数（件/年）	60	65	68	67	83	5549
第1当事者事故件数割合（%）	67.4%	63.1%	61.3%	57.8%	64.8%	63.4%
死者（人）	1	1	0	1	0	80
傷者（人）	52	54	63	71	76	5695
傷者（第1当事者）（人）	7	11	8	3	*	1064
傷者（第2当事者）（人）	34	37	47	57	*	3635
高齢者人口（人）	24,387	25,475	26,087	26,749	27,179	
高齢者人口に占める事故件数割合（%）	0.36%	0.40%	0.43%	0.43%	0.47%	
高齢者人口に占める傷者割合（%）	0.21%	0.21%	0.24%	0.27%	0.28%	

* 交通年鑑データが発表されていないため空欄

- ②平成29年高齢者の交通事故死者数は0人であったが、高齢者事故件数は毎年増加している。高齢者人口に占める事故件数も増加傾向である。市内交通事故件数の約3分の1が高齢者関係事故である。高齢者事故件数に占める第1当事者事故件数割合は6割を超えている。

高齢者に対する交通安全教育実施回数・参加者数

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
実施回数（回）	2	1	1	1	1
参加者（人）	36	33	22	23	80

- ③高齢者に対する交通安全教育は平成26年以降は年1回の開催となっている。高齢者事故件数が増加していることから、今後、高齢者への交通安全教育を充実させる必要があると思われる。

子どもの安全確保

子ども関係事故（15歳以下）

<参考>
(兵庫県)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成28年
市内交通事故件数（件）	352	356	319	322	351	27340
子ども事故件数（件/年）	25	23	15	21	21	1174
事故全体に占める 子ども事故件数の割合（%）	7.1%	6.5%	4.7%	6.5%	6.0%	4.3%
第1当事者事故件数（件/年）	7	6	4	5	7	449
子ども事故件数に占める 第1当事者事故件数割合（%）	28.0%	26.1%	26.7%	23.8%	33.3%	38.2%
死者（人）	0	0	0	0	0	4
傷者（人）	34	30	20	30	25	2034
傷者（第1当事者）（人）	7	6	3	4	*	395
傷者（第2当事者）（人）	18	17	9	17	*	727
子ども人口（人）	13,873	13,811	13,660	12,468	12,313	
子ども人口に占める事故件数割合（%）	0.18%	0.17%	0.11%	0.17%	0.17%	
子ども人口に占める傷者割合（%）	0.25%	0.22%	0.15%	0.24%	0.20%	

* 交通年鑑データが発表されていないため空欄

④子ども人口に占める事故件数割合はほぼ横ばいであるが、子ども事故件数に占める第1当事者事故件数割合が増加している。

子どもを対象とした交通安全教室の推進

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年
幼稚園（回）	20	20	18	15	16
保育所・園（回）	17	19	23	27	25
小学校（回）	16	16	14	16	16
中学校（回）	0	4	5	3	3
特別支援学校（回）	2	2	2	1	2
高等学校（回）	0	0	0	0	0
計	55	61	62	62	62

⑤幼稚園、保育所・園、小学校対象の交通安全教室は年間を通じて実施しているが、高等学校の交通安全教室が実施されていない。自分が加害者になる可能性がある世代（中学校以上）対象の交通安全教室の推進が必要と思われる。

歩行者の安全確保

歩行者関係事故

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
市内交通事故件数（件）	352	356	319	322	351
歩行者関係事故件数 （件/年）	38	51	40	62	54
事故全体に占める 歩行者の関係する事故の割合（％）	10.8%	14.3%	12.5%	19.3%	15.4%
死者（人）	1	3	0	1	0
傷者（人）	37	50	41	62	54
傷者（第1当事者）（人）	3	3	4	0	0
傷者（第2当事者）（人）	33	46	-	62	56

自転車と歩行者の交通事故件数

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
事故件数（件/年）	4	1	5	14	7

ゾーン30実施エリアにおける事故件数（速度違反が要因の事故）

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
事故件数（件/年）	0	0	0	0	0

⑥歩行者関係事故件数が平成28年に比べて平成29年は減少している。特に自転車と歩行者の交通事故件数は平成28年に比べて半減している。

自転車の安全確保

<参考>
(兵庫県)

自転車の関係した事故

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成28年
市内交通事故件数（件）	352	356	319	322	351	27340
関係事故件数（件/年）	117	87	87	103	114	5945
構成率（％）	33.2%	24.4%	27.3%	32.0%	32.5%	21.7%
人対自転車（件）	4	1	5	14	7	183
自転車対車両（件）	107	83	80	87	101	5531
自転車単独（件）	6	3	2	2	6	231
1当事件数（件/年）	28	27	21	42	41	2022
自転車事故件数に占める 第1当事者事故件数割合（％）	23.9%	31.0%	24.1%	40.8%	36.0%	34.0%
（乗用中）死者（人）	0	0	0	0	0	30
（乗用中）傷者（人）	114	89	87	89	113	5800
（乗用中）計（人）	114	89	87	89	113	5830

第1当事者（自転車）事故件数

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
第1当事者事故件数（件/年）	28	27	21	42	41

第1当事者事故件数（違反別で主なもの）

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
通行区分（件）	1	2	2	0	0
一時不停止（件）	1	5	2	8	20
信号無視（件）	3	4	3	4	3

⑦市内交通事故件数のうち、自転車関係事故が約3割を占めている。平成29年は人対自転車の事故件数は減少しているが、自転車単独、自転車対車両の事故件数が増加している。また、第1当事者事故件数のうち、乗用中の傷者が増加している。

自転車教室参加人数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年
参加者（人）	41	21	39	21	14

自転車交通安全教室実施状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年
小学校（回）	8	8	8	8	8
中学校（回）	0	4	5	3	3
高等学校（回）	0	0	0	0	0
計	8	12	13	11	11

⑧自転車教室の参加者が平成28年度から減少している。小・中学校での自転車交通安全教室は定期的に行われているが、自分が加害者になる可能性がある世代（中学校以上）対象の交通安全教室の推進が必要と思われる。

生活道路における安全確保

生活道路における交通事故件数

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
市内交通事故件数（件）	352	356	319	322	351
生活道路における事故件数（件）	212	213	191	198	216
事故全体に占める生活道路事故件数の割合（％）	60.2%	59.8%	59.9%	61.5%	61.5%

防護柵を設置した場所の事故件数

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
事故件数（件/年）	0	0	0	0	0

⑨市内交通事故件数のうち、生活道路における事故件数が約6割を占めており横ばいである。また防護柵を設置した場所の事故は発生していない。

幹線道路における安全確保

主要幹線道路における交通事故件数

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
山手幹線（件）	27	30	30	21	22
国道2号線（件）	60	59	57	44	52
国道43号線（件）	53	54	41	59	61
合計（件）	140	143	128	124	135
事故全体に占める割合（％）	39.8%	40.2%	40.1%	38.5%	38.5%

主要幹線道路交差点付近事故件数

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
山手幹線（件）	5	11	4	8	10
国道2号線（件）	24	27	34	18	31
国道43号線（件）	18	22	14	26	24
合計	47	60	52	52	65
事故全体に占める交差点付近の事故割合（％）	13.4%	16.9%	16.3%	16.1%	18.5%
主要幹線道路事故における交差点付近事故の占める割合（％）	33.6%	42.0%	40.6%	41.9%	48.1%

⑩平成29年は主要幹線道路のうち国道2号線、国道2号線付近事故件数が増加した。事故全体に占める主要幹線道路における事故の割合は約4割である。主要幹線道路においては交差点付近における事故の割合が高い。

重視する視点に特化しない包括的な安全確保

交通事故に対する救急出場件数

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
救急出場（件）	280	324	277	280	264

応急手当講習等受講人員

対象\年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
普通救命講習Ⅰ （一般市民, 学校・園）（人）	631	475	391	403	442
普通救命講習Ⅱ（トライやるウィーク生徒, 保育園・幼稚園職員）（人）	113	58	45	82	65
上級救命講習（一般市民）（人）	9	6	11	12	19
応急手当講習（一般市民, 学校・園）（人）	1,535	1,804	1,337	1,625	1,396
応急手当普及員講習（消防団員）（人）	7	—	9	—	5
応急手当普及員再講習（消防団員）（人）	48	—	35	3	—
合 計（人）	2,343	2,343	1,828	2,126	1,927

踏切道における交通事故死傷者

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
事故件数（件）	0	0	1	0	0
死者（人）	0	0	0	0	0
傷者（人）	0	0	1	0	0